

尾田、ドラッグ・コート会議に行く！

事務局長 尾田真言

私はアメリカのドラッグ・コートの最新情報を入手するために、毎年1回アメリカで開催されている、NADCP（全米ドラッグ・コート専門家協会）のトレーニング・カンファレンスに、平成15(2003)年から毎年参加しています。

全米ドラッグ・コート専門家協会（National Association of Drug Court Professionals、以下NADCPという）は、1989年のマイアミでのドラッグ・コート創設から5年経過した1994年に設立された大規模な非営利団体であり、ドラッグ・コートの実務家（裁判官、検察官、弁護士、保護観察官、ケースワーカー、カウンセラー、TCや薬物依存症リハビリ施設などのトリートメント・プロバイダーのスタッフ等）と関連団体（自助グループ、薬物検査キット製造業者、出版社等）がメンバーになっています。NADCPの活動目標は、ドラッグ・コートを発展させ、資金援助を行い、最新情報を提供し、相互に情報交換しあうことです。NADCPは1995年から毎年トレーニング・カンファレンス（年次研修会議）を開催し、ドラッグ・コートの担い手たちに、ドラッグ・コートをめぐる諸問題についての最新情報を提供し、参加者を教育しています。

このトレーニング・カンファレンスに出席して感じたことは、このカンファレンス自体が、NADCPとしての統一的な見解を関係者に周知徹底する場として機能しているのではないかということです。出席者のほとんどがドラッグ・コート業務に携わる実務家であり、実践的な知識を得て日々の業務に役立てようと研修に来ているという雰囲気がありました。研究者が議論を戦わせる学会とは異なり、講師がレクチャーするという形式のセッションがほとんどでした。

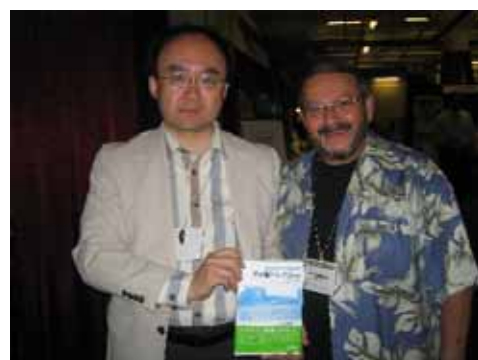
今年は、平成19(2007)年6月13日(水)から4日間、第13回のトレーニング・カンファレンスがアメリカの首都、ワシントンDCで開催されました。今年のテーマは、「ドラッグ・コートを更に推進しよう！」(TAKING DRUG COURTS TO SCALE)でした。今年が例年と最も異なっていたのは、ドラッグ・コートの終了者が何人か参加していて、2,000人が参加する非常に大きなセッションから、10数人が参加する小さなセッションまで、いろいろなセッションにおいて、自らの体験談を語っていたことです。

<6/14(木) 2日目>

カンファレンス会場では、毎朝、展示ブースの一角で、コーヒー、パン、フルーツが提供される大きな部屋が用意されています。そこに何百人もの人が立ち寄るのです。朝8時頃会場に到着して、そこでコーヒーを持って歩いていたら、ロジネック判事を見かけました。『日本版ドラッグ・コート 処罰から治療へ』を持ってきていたので、すぐにそれを献本しました。マイアミ・ドラッグ・コートが出ている106頁を示すと、「日本の書籍に私のドラッグ・コートが出ている」と大変喜んでくれました。裁判官名、裁判所名、住所、URLは英語表記ですから、自分が出ていることがわかったのでしょう。

今年の4月15日(日)のマイアミ・ヘラルドという新聞で、ロジネック判事のかかえるドラッグ・コート参加者数が2,200人になってしまい、今年の8月まで新規の受け入れを停止することになったことを知りました。そのことについて、ロジネック判事に、8月まで薬物事犯者に対してどうするのかと聞いたところ、残念だけれどもジェイル（刑務所）に入れる他ないとのことでした。それから翌日の夜は、ジョージタウンに食事に行くから一緒に行かないかと誘われました。ここ数年、毎年1回はNADCPで会って、一緒に食事をしています。

毎年、トレーニング・カンファレンスの会場では、トリートメント・プロバイダーや関連製品の販売業者等の計50社が大きな



マイアミのロジネック判事とともに。本を献本しました。



N.Y.ブルックリンのフェルディナンド判事とともに

部屋にブースを出して、まるで見本市のような感じになっています。

今年は、即決裁判で単純執行猶予になった覚せい剤事犯者の中から希望者を募って、毎週1回、アパリで薬物検査を実施するとともに、日本ダルクでミーティングに参加するという警察庁のモデル事業が実施される予定です。それに向けて、唾液検査キットを入手するルートを開発する必要があるのですが、以前から目をつけていた製品の業者がブースを出していたので、購入するための交渉をし、いくつかサンプルももらってきました。薬物検査キットについては、今年からは、製造業者だけでなく、販売代理店もブースを出していたので、中には、同じ製品が別のブースでも展示されていて、価格も微妙に違っていました。

ひとつおり、ブースを見てから、カンファレンス会場に移動して、ドラッグ・コートの卒業生と判事が交互に簡単なスピーチをしているセッションに参加しました。プログラム集には名前が出ていなかったのですが、同じく平成15(2003)年の11月に訪問したニューヨークのブルックリン・トリートメント・コートのフェルディナンド判事が壇上で、「私は今日ここに来るまで、卒業生の人たちがこのカンファレンスに参加していることは知らなかったが、とてもうれしく思う。裁判官になって最初の10年間は薬物事犯者をジェイルに送るだけで、二度と私の前には来ないようにと送り出していたのに、ドラッグ・コートが始まってからは、卒業生と街で会えば挨拶をしたりするようになり、薬物依存からの回復を信じられるようになってきた。」といった話をしていました。NADCPのトレーニング・カンファレンスは毎年、2~3,000人もの関係者が集う場所で、その中で会いたいと思う人に会えるのはなかなか大変なことだと思うのですが、この判事も、ほとんど毎年会っています。このセッションが終了した後に開催された昼食会は、それこそ2,000人以上が入る大きな宴会場でアルコール抜きで、なぜか毎年、チキン料理のフルコースが提供されるのですが、この会場の一番後ろから、前に向かって、フェルディナンド判事を探して歩いて行ったところ、数分で、真ん中あたりに一人で座っているのを見つけられました。会った瞬間に、「あなたのことは覚えているわよ」と言われました。「先月、日本でドラッグ・コートの本を出版しました。私も著者の一人です」と言ってあらかじめ、サインをしておいた『日本版ドラッグ・コート』を献本して、ブルックリン・トリートメント・コートが出ている102頁を開いて見せたところ、彼女も大変驚き、そして喜んでくれました。

そして、一番前の方まで行った所で、なぜか、DWI (driving while impaired) コートと呼ばれる飲酒運転者を対象とする裁判所にプログラムを提供している業者のために用意されていたテーブルが空いていて、その代表に話しかけられ、招かれました。これは毎年感じるのですが、概して、NADCPの参加者は、皆さん大変フレンドリーです。

食事が終わって、午後6時から、チャーター・バスを何台も連ねて、国会議事堂に移動しました。この日は、自分の知り合いの国会議員のところにドラッグ・コートに予算をつけるように陳情に行き、夕方6時から、国会議事堂前で集会を開こうという催しがあったのです。バスを待つ列に並んでいたら、私のネーム・プレートを見た、ある参加者の一人から、「お前は本当に日本から来ているのか。何、日本にはドラッグ・コートがないんだって。それなのに、なぜこんなところまで来ているのか」と聞かれたので、「私は刑事政策の研究者で、米国のドラッグ・コート制度に関心があるから情報収集のために来ている」と答えたところ、笑われたこともありました。私が首から提げていたIDカードには、Tokyo JAPANと書かれていたので、日本人だということはわかって、まさか本当に東京から来ているとは思っていない人が多かったようです。バスに乗ってからも、珍しかったのか、いろいろと隣の人から話しかけられました。

国会議事堂近くでバスを降ろされてから、4時間くらい空き時間があって、徒歩で、ワシントン記念館を往復しました。10km以上あったようです。万歩計で確認したら、この日1日で2万8千歩歩いています。疲れ果てて、この日は夜ホテルに帰ってから、すぐに寝てしまいました。

< 6/15 (金) 3日目 >

この日も朝から、地下鉄に乗り会場に向かいました。「マスメディアにおけるドラッグ・コートと回復」というセッションに参加しました。ここではマスメディアで報道されたドラッグ・コートのビデオを抜粋して上映しながら解説する、大きなセッションに参加しました。もうひとつ、薬物検査キットの使い方についてのセッションに参加してから、一度ホテルに戻ったのですが、突然5時半ころロジネック判事から電話が入り、「今どこにいる？ 予定変更があって、6時に出発することになったから」と言われてしまいました。ちょうど極限状態の睡魔に襲われて爆睡してしまうところだったので、電話が入って本当に良かったと思いました。あわててタクシーに乗って会場のホテルに戻り、そこからマイアミ・ドラッグ・コートの一行と3台のタクシーに分乗して、イタリア料理店に向かいました。スタッフは総勢10名くらいだったと思います。ロジネック判事に、「今まで日本に来たドラッグ・コート判事はペギー・ホラ判事(現在は退職)だけです。彼女は4年前に日本に来て東京、大阪、京都で講演しました。私は、是非、ロジネック判事にも日本で講演してもらいたいのですが」と言ったところ、「私一人で行くのではなく、マイアミ・ドラッグ・コートのチームとして招待してもらえよう、東京の弁護士会に話を持っていってほしいか」と言われました。マイアミは1989年に最初のドラッグ・コートが創設された場所です。ロジネック判事はマイアミで2代目のドラッグ・コート判事です。帰国後に来たメールでは、日本国政府に話をつけてくれと書いてありました。この話が実現することを期待します。



薬物検査キットの業者の人と



ワシントンの市内
国会議事堂前での集会風景



ロジネック判事に誘われてマイアミのドラッグ・コートチームと夕食